青木さんちの奥さん　台本　第一版

ギター、ビールケースに座ってギターを弾き始める。ジャガイモの芽をお好み焼きのヘラで取っていた新人従業員のタケシが歌いだす。

タケシ ～青春アミーゴ～　（歌い終わるとセリフ）

タケシ （セリフ長いので半分にする）しもうたことしたなあ、ワン・ツーやもんな、ストライク来る思うがな、バッティングチャンスやもんなあ、高めには手え出したらアカン思うとったんや、一点差や、わしが決めたろう思うがな、やっぱ、もう一球待っとったら、良かったかなあ、ほな、ワンスリーになっとったがな。・・・いや、いかん、いかん、ファーボールで出てどないすんねん。あとは６番７番や期待できへん、どっちみち、負けとったがな、わしがうたな、あかんかってん。３対２で９回ツーアウトや、誰でも一発狙うやろ・・・少し気おったかな・・・地区大会でもテレビはいっとったもんな、いいとこ見せよう思うがな。ああ、あと一回まわって来とったらな、絶対かっとったのに・・・。始めからピッチャーやっときゃよかったんや、監督に、「やらしとくれ！」言えばよかったなあ、そしたら三点も取られなかったんや、あの監督の見る目がなかったんや、「お前、ピッチャーやれ！」言われたら、「はい！」言うて練習しとったのに・・アカンかあ・・・コントールないもんなあ・・・。しかし、三点取られた高田がソフトバンクで、二割五分の山中が楽天やろ、なんでわしいもむいてんねん！

（ギター） （Ｂ．Ｂ．クイーンズ「ドレミファだいじょーぶ」これを歌いながらビールケースに数本の空き瓶を入れためめ登場。）スキップしながら登場。気分はうきうき

（めめ） （伝票を取り出し、タケシの横でジャガイモを５個ずつビニールに入れ始める）

タケシ あの、今日からこちらにお世話になるタケシです。よろしくお願いします。。

めめ あっ、そうですか？

タケシ 大将にここでイモの芽むくように言われたんですけど。

めめ うん、やってね。

タケシ あ、はい。

（めめ） （黙々とビニール袋にイモを詰める）

タケシ あの・・・

めめ うん？

タケシ ここ、酒屋さんですよねぇ。

めめ なんか文句でも？

タケシ はぁ・・・、あの、これ。（とイモを一つ差し出し）イモですよね？

めめ ああ

びしっと

気のない感じで

タケシ 何でイモなんすか？

めめ え？

タケシ このイモ何に使うんですか？

めめ プレゼント（と言いながらもビニール袋にイモを詰める）

タケシ ・・・・・・はぁ・・・・・・こんなにたくさん。

めめ んん。（とイモを詰める）

タケシ （黙々とイモを詰めるめめをみて）・・・よっぽどイモ好きなんですねぇ。

めめ まあ安いしなぁ、いろいろ使えるし。

タケシ ハァ、プレゼントか・・・・誕生日いつなんですか？

めめ ・・・・・・　６月２７日

タケシ あ、じゃ、まだだいぶ間ありますねぇ。

めめ まだまだだなぁ。

タケシ そんじゃ、のんびりやっても大丈夫ですね。

めめ いやダメダメ、間に合わないよ。

タケシ えっ？間に合わないって、まだあるんですか？

めめ 裏に行ったらまだまだあるよ

タケシ ・・・一体どンだけ食うんですか？

めめ 一日・・・５００個ぐらいかな？

タケシ 痩せてますねえ。

めめ （芋詰める手止めて）うん？

タケシ いや、痩せてはるなあ思うて・・・

めめ ・・・仕事きついからなあ。

タケシ へえ・・・・プレゼントか・・・いも好きなんですねえ

めめ （芋詰めながらうっとうしそうに）そうだね。

タケシ イモ好きなんすか？

めめ うん？（手止めて）

タケシ イモ。

めめ 俺？

タケシ はい。

めめ 俺は肉が好きかな。

タケシ ・・・じゃ何でイモ何ですか？

めめ 知らないよ、大将に聞けば。

タケシ えっ？ああ、大将の誕生日なんですか。

めめ ・・・なにいってんの。

タケシ やー、プレゼントがいもなんて。

めめ ・・・。（相手にせず、イモを詰めようとするが伝票が１枚足りず）あれ？

タケシ よっぽどイモ好きなんやなぁ。

めめ あれ？（とあたりを探し回る）・・・・・・やられた！（ここで退場）

タケシ あの～～。プレゼントか・・・・・・。

（ギター） （千昌夫の望郷酒場を弾き始める。ビールケースに数本の空き瓶を持った大ちゃん登場）

タケシ あの、初めまして、今日からこちらにお世話になりますタケシです。よろしくお願いします。

大ちゃん あ、そう。（とビニールにイモを詰め始める。やはり５個ずつ。）

タケシ （再びイモの芽を取り始めるが、大ちゃんの作業が気になり、）リボンとかかけなくていいんですか？

大ちゃん うん？

タケシ 誕生日なんやから花なんかも添えて、あ、ここ酒場だし、飲み物には困りませんよね。まさか、食い物、イモだけちゃいますよねぇ。ケーキはいりますよね。やっぱり大勢呼ぶんんですかねぇ、服、これじゃまずいですよね、あちゃ、俺、背広持ってないんすよ。

大ちゃん ・・・何やおまえ。

タケシ えっ？いや、誕生日のパーティ。

大ちゃん 誰の？

タケシ 大将。

大ちゃん 何で？

タケシ これ、持って行くんじゃないんですか？

大ちゃん ・・・持って行くよ。

タケシ プレゼントですよね。

大ちゃん うん？　ああ、まぁそうや。

タケシ ・・・あれ、誕生日いつでしたっけ？

大ちゃん １０月

タケシ えっ？６月じゃ。

大ちゃん １０月１１日や。

タケシ あ、来年ですか？

大ちゃん そうや。

タケシ 来年か・・・（ちょっと間長く）・・・、えっ！　そんじゃおれ、来年までイモですか？

大ちゃん 何言うとんねん。（と作業を続けようとするが、伝票は１枚足りない。）

あれ？！（と探し回る）。あっ、くっそ～。（と去る）

タケシ ちょっと、・・・・・・。おい、来年か・・・。

（ギター） （テレビ漫画のタイガーマスクのエンディング）（それを歌いながらビールケースに数本の空き瓶を持ったエグッさん登場）

タケシ ・・・・・・。（ただ、イモを見つめて立ち尽くす）

エグッさん （イモを５個ずつビニール袋に詰める）

タケシ ・・・・・・大変なことですねぇ。

エグッさん 大変だよ、渋滞がひどくて。

タケシ いや、渋滞じゃなくて、このイモ。

エグッさん イモは大変じゃないだろ、食われるだけだから、運ぶ方が大変や。

タケシ いや、芽むくの大変だなーと思って。

エグッさん 何甘えてんの？

タケシ だって。

エグッさん 仕事だろ？

タケシ ハァ・・・・・・、そうですね、仕事ですよね。（と思い直してイモの芽を再び取り始め）、しっかし、すごいプレゼントですねぇ。

エグッさん 何が？

タケシ このイモ。

エグッさん ・・・・・・すごくはないだろ。

タケシ すごいですよ、こんなイモのプレゼント。

エグッさん お前、イモもらって、わぁ、すごいな！って言うの？

タケシ はい、言いますよ、これは。

エグッさん そんなにイモ好きか？

タケシ なんだか、さっきまでは好きやったんですけど。

エグッさん 急に嫌いになった？

タケシ ・・・・・・はい、かなり嫌いに・・・・・・。

エグッさん だめだよ、好き嫌いは。

タケシ ハァ・・・。

エグッさん 何でも食べなきゃ。

タケシ あんまり食べたくない。

エグッさん おまえが食べなくたっていいんだよ。芽むけよ！

タケシ あ、はい・・・・・・。誕生日６月でしたよね？

エグッさん ８月。

タケシ えっ？

エグッさん　８月３０日

タケシ １０月じゃ？

エグッさん ８月３０日だよ？

タケシ ハァ、そうですか・・・・・・あ、それなら２ヶ月助かった。

エグッさん 何？

タケシ いや、助かったなぁと思って。

エグッさん ・・・・・・ふん、そりゃよかったなぁ。

タケシ よかったですよ、はい。でも・・・・・・びっくりしたなぁ。

エグッさん 何が？

タケシ 大将のイモ好きには。

エグッさん 大将イモ嫌いだけど。

タケシ えー？？

エグッさん 大将はイモ食べないよ。

タケシ そんじゃこれ！（とイモを見つめ、沈黙）

エグッさん 何？

タケシ ハァ・・・・・・、イヤガラセですか？

エグッさん うん？？

タケシ 大将、根性悪いんすか？

エグッさん 何で？

タケシ なるほど、商売で成功するにはそれぐらいじゃないと・・・・・・い

じわるか。

エグッさん 馬鹿なの？

タケシ 大将？

エグッさん おまえや。

タケシ いや、僕馬鹿じゃないですよ。

エグッさん ・・・・・・何でこんな奴採ったんだろ、大将。

タケシ 店の張り紙みて、「あのーバイトしたいんですけど。」って言ったら、「ほな、明日からきてぇ」って言われて、ずいぶん簡単だなぁと思ったんですけど。あのときは、そんなに悪い人には見えませんでしたけどねぇ。

エグッさん おまえ、一生イモむいとけ。

タケシ え？来年までじゃないんですか？

エグッさん 一生だ。（とイモを詰める）

タケシ ・・・・・・殺生だ。

エグッさん 何？

タケシ 一生は勘弁してくださいよ。配達やろうと思ってきたのに、イモばっかりじゃ。

エグッさん あれっ？（伝票が足りない）　あれーっ！（と探しながらエグッさん退場）

タケシ 一生は・・・・・・、一生は殺生だ・・・・・・。

（ギター） （♪逢いたくて逢いたくて♪、歌いながらビールケースに数本の空き瓶を持ってマサシ登場）

（タケシ） （イモを見つめ、ただ、ただ、立ち尽くす）

（マサシ） （伝票を見ながら、イモをビニール袋へ）

タケシ ・・・・・・僕は一生このままでしょうか！

マサシ （驚いて）えっ？

タケシ 一生イモむいて終わるんでしょうか？

マサシ ・・・・・・さぁ・・・・・・。

タケシ 本当は、プロいきたかったんです。

マサシ へ？

タケシ 打率三割あったんですよ。二割五分の山中が楽天だから、僕なら、阪神、いや、広島？ぐらいは行けると思ってたんです。けど、僕、芋虫みたいに足遅いんすわ。

マサシ は？

タケシ でも、一生はいやです。プレゼントのため一生イモむくなんて。

マサシ 別に一生はやらなくてもいいよ。

タケシ へっ？

マサシ イモは今年だけだから。

タケシ へ？　今年だけなんですか？

マサシ うん、たぶん。

タケシ ハァ・・・・・・。じゃぁがんばろうかな。

マサシ まぁ、がんばってよ。

タケシ はい。（またイモの芽をむいて）あの、すみません

マサシ ん？

タケシ 来年は何ですかねぇ？

マサシ さぁ、大将が決めるからね。

タケシ 自分で、あれがほしい、これがほしいって言うんですか？

マサシ えっ？

タケシ あれ？そんじゃ何でイモなんですか？

マサシ あん？

タケシ 大将イモ嫌いなんでしょ。

マサシ ああ。

タケシ え？

マサシ うん？

タケシ だって、プレゼントでしょ。

マサシ うん。

タケシ え？

マサシ うん？

タケシ あれ？

マサシ なに？

タケシ 大将イモ嫌いなんでしょ。

マサシ そうだけど、大将が食べるわけじゃないから。

タケシ え？

マサシ え、じゃないよ。お客さんにあげるんだから

タケシ へ？

マサシ ・・・・・・いいか、（と伝票を見せて）ビール、一ケースにつき５個、一升瓶なら３個、そんで、一日百件配達するとしたって５，６百個いるだろ。

タケシ あ、サービスですか！

マサシ そんなにすごいか？

タケシ あ、サービスか…それでプレゼント……！ハァ、そうですよね。そんなに高いものじゃないし、何でも使えますもんねぇ。そうか、サービス・・・でもなんか変わってますねえ。

マサシ （もう相手にせず、イモをビニールに詰め）うん？

タケシ イモのサービスなんて、ここ酒屋さんでしょ。

マサシ そうだねぇ。

タケシ 何でイモなんすかねぇ。

マサシ あれ？（伝票１枚足りない。）あれ？（と探し回り）あっ！（と思いつく）

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

ギター♪サザエさんのテーマ♪　　　めめ、大ちゃん、エグッさん、マサシ皆それぞれに、ビールケースの下やそこら中を探し回る。歌い終わったところで、にらみ合い、言い争い始まる。

いい発音

４人、日頃の不満か、悪口か？とにかく四人が同時に叫ぶからわかんない感じ。ただ、どうやら伝票を取ったの取らないので話がもめている。タケシそれを呆然と見ているが、曲が終わって口論を始めてからイモを一つ持ち、割って入って

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ すいません、すいません！何でイモなんですか？

　　　　　　一回目　スルー

　　　　　　二回目　ちょっと見て、またスルー

　　　　　　三回目　スルー

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

またすぐ言い争いになり、今度は口だけではすまず、小突きあう（またまた口論を始めるが、今度は小突きあいでも収まらず、野球で、選手や監督が抗議するときに見ることのできる手を後ろに回しての胸同士のぶつかり合いへと進展し）

タケシ （やはり、どうにも納得がいかず、）すいません！　もう何でイモなんですか？

４人 （タケシがしつこいので頭にきて、）イモじゃねぇ！青木さん家の奥さんだろう！キレてタケシをふきとばす。

タケシ 青木さん家の奥さん……？

マサシ （皆をにらみつけ）いいか、俺は今日、朝一で、おかみさんの机から青木さん家の奥さんの配達伝票を抜いて、さぁ、久しぶりに行くぞー、と思ってイモ取りに来たら、ほらーないじゃないか。めめ、どうしてそうやって人のもん取っていくんだ！

めめ 取っていくんだ！ってねぇ、僕は何も取りませんよ。今日、朝一番に店いったのは僕ですよ、そしで、おかみさんから青木さん家の伝票もらって。

マサシ 何だと？

めめ 嘘じゃないですよ、本当ですよ。それぁら、ここでイモ詰めていこうと思ったら伝票どっか行ってしまって無いじゃないですか、あれ、おっかしいなぁって思い返したら、店の裏口でエグッさんと肩ぶつかったの思い出したんだよね、きっとそのとき落としたんでしょ。返してくださいよエグッさん。

エグッさん ウソつくな。

めめ ウソじゃないですよ、本当に本当ですよ。

エグッさん 俺が店へ行ったとき、まだシャッター降りてたんだぞ、俺が一番早起きだ。

マサシ なに？

エグッさん ちょうど俺と似て早起きの青木さんから注文の電話が入って、それメモってたおかみさんから直接、配達伝票、目の前で受け取ったのはこの俺や。

マサシ またそういうことを・・・・・・。

エグッさん そしてだな、イモ待って行こう思ったら伝票がない。しまった！・　車のボンネットに忘れて来たかと思って行って見ても、ない。そういや俺の車の横でな、ビチャビチャ朝寝ぼうの男が遅刻して来て顔洗ってたんだよ、そいつは、俺が伝票ボンネットに置くクセ知ってたんだよなあ、盗人が。

大ちゃん わしの事言うとんかい？

エグッさん　お前以外に誰れがいるんだよ？。

大ちゃん　 かなわんのう、そう言う言いがかりは。

エグッさん　お前、ビチャビチャ顔洗ってただろう。

大ちゃん　 おお洗っとったよ、洗ってました。

エグッさん　ほれ見ろ。

大ちゃん　 ちょっと待て、ええか、よう聞けよ、わしはな、もう三目前から青木さん家の配達伝票は予約済みや。

マサシ　 何だ？

大ちゃん　 そんでやなァ、いつもの様に余裕の朝を迎えた私はだ、予約済みの伝票おかみさんからもろうてや、さ、顔でも洗ってさっばりして配達行こう思たら、水道ん所へ伝票ビチャーと落としてもうた。こらアカン。「スンマセン、おかみさん伝票ぬらしてもうたんで書き直してもらえませんか？」言うたら　「ああ、ええよ」　って「そんじや顔洗うてますから………」つってそんで、「もうできましたか？」言うて取り行ったら、「ああ、青木さん家の伝票はマサシが踊りながら持ってったよ」

マサシ　 コラ！

大ちゃん　 この踊り盗人が！

マサシ　 いい加減な事を言うな！　この野郎！　何だ？　そんじゃ俺は、踊りながら伝票取って行ったのか、ああウレシイ、青木さんのだーい、って踊るのか？　ふざけんじゃねぇ！　お前等、人の話をよく聞けよ、朝一で俺がおかみさんから伝票もらったって言ってんだろ！

めめ　 だから朝一は僕ですって。

エグッさん　わしはシャッターが降りてたんだ。

大ちゃん　 三日前から予約済みやで。

マサシ　 デタラメ言うな！　返せ、このめめ！

めめ　 めめって、ぼくじゃないでしょ。エグッさんでしょ。

エグッさん　俺じゃなくて、大ちゃんがボンネットから盗んで行ったんだ。

大ちゃん　 わしの話やのうて、今はそこのコソドロの話をしとんのやろ。

マサシ　 誰れがコソドロだよ、コソドロはめめだろうが。

めめ　 僕じゃないでしょ、このエグッさん！

エグッさん 俺じゃねえだろ、このコソドロ！　（と大ちゃんに）

大ちゃん　 わしは今、そこの、強盗の事言うてんねん。

マサシ　 誰が強盗だよ、この野郎！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

と、また口論が始まる。口論は、手を後ろに回しての胸の突き合いと

踊る

なり、やがてめめ一人が的となって首をしめられ倒され、皆にキックの嵐を食**らい出す。**たけしピコピコハンマーで応戦

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

エグッさん （今まで自分もキックしていたのだが）　コラーお前等、話し合いでもできないのかよ！けりが止まり、村木たつ

めめ大ちゃんマサシ　……。

めめ　 ……今、蹴ってませんでした？

エグッさん　満足に話しもできねえ奴は、配達の資格なんかねえ！

大ちゃん　 お前、自分だけ何だ？

マサシ　 ……汚ねぇなぁ……。

エグッさん　土足で人を足蹴にして。汚いだろドロだらけで。話し合いだろ。

めめ　 何を言ってんの？

マサシ　 ……話し合いでいいのか？　話し合いでいいのかよ？

めめ　 いいですよ僕は。

エグッさん　いいよ。

大ちゃん　 わしもええよ。

たけし　　　ぼくもいいよ、とぼそっと言うがシカとされる

マサシ　 言っとくけど話し合いってのは、正直にやんなきや意味ないんだからな、ウソつくなよ。

エグッさん　正直にやろうな。

マサシ　 バカが！　話し合いになれば、俺の理路整然とした文体に翻弄されて、シドロモドロになんだぞ君達は！うざさマックス

めめ　 何ですか？

マサシ　 いいんだな。話し合いで。

めめ　 いいですよ僕は。

エグッさん　いいよ。

大ちゃん　 わしはええ言うてるやろうが。

たけし　　　僕もいいよというがみんなにシカとされる。

マサシ　 そんじゃやりましょうよ。ねぇ、正直にやるんだよ。（とビールケースを引っぱり出して座る）

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

そのご、ほかのみんなもビールケースを二重にしたり、たてにしたりして、座る。 ☆ここからは、誰が正当な持ち主であるのか、を探り合う。☆

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ　 （語尾を上げて、うざさマックス）

俺は正直に言うよ、ウソじゃないよ。いいかい、私は、ここ三ヵ月と言うもの青木さん家へ配達に行っておりません、近所にも行ってない。あそこのお宅は、月に三回配達があるんだから、ね、三ヵ月で九回ですよ。で、うちは四人しか配達いないんだから、そのうち俺は行ってないんだから、て事は、この九回を三人で行ってるわけでしょ。そん

じゃあんた、この中に、平気で二回三回達チャンで行ってる人がいる

ってことじゃないか。……ねえ、めめ。

めめ　 ねえ、めめって、あのね、正直に言いますよ。

マサシ　 言ってみろよ正直に。

めめ　 言いますよ正直に、僕は先月一回行きました。

マサシ　 ほれ見ろ、ね、行ってるんだよこいつは・・・。

めめ　 一回だけですよ、先月。それより、あれは、いつやったかな、ワハハ、連チャンだ連チャンだってエグッさんが。

エグッさん　オイ！

めめ　 言ってたでしょ。

エグッさん　言ってましたよ。行きましたよ連チャンで。

マサシ　 お前か……。

エグッさん　ちょっと待てよ。でもな、確かに連チャンで行ったけどな、正直に言えば、俺は去年から行ってなかったんだぞ。

めめ なんですか？

エグッさん　だからな、去年の分の貯金があるんだよ、それでそれに利息がついてニ回ぐらい連チャンで行ったってオツリが来るだろ普通。

マサシ　 変な理屈つけんじゃねぇよ。

エグッさん　俺の事より、大ちゃんやで、正直に言えない奴は、なア。

大ちゃん　 何や？

エグッさん　正直にもの言えないだろお前は。

大ちゃん　 一つ聞いてもええか？

マサシ　 何だよ。

大ちゃん ……青木さんって誰？

めめエグッさんマサシ 何だ？

大ちゃん　 俺は、えらい長いこと行ってへんから顔も忘れてもうたわ。

マサシ　 じゃ誰れが行ってんだよ、え？計算合わないじゃないか、誰が行ってんの？

大ちゃん　 お前や。

マサシ　 へ？

大ちゃん　 お前、毎晩青木さん家へ行っては窓に石投げて、「誰？」って奥さん窓開けたところカメラでパチッと。

マサシ　 こら、人を痴漢みたいに言うな。痴漢はめめだろ。

めめ　 何で僕が痴漢なんですか、このエグッさん！

エグッさん　俺は何も言ってねぇだろ。この痴漢！

大ちゃん　 俺は痴漢ちゃうやんけ、今はそこの覗き魔のこと言っとんや。

マサシ　 誰が覗き魔だよ、覗き魔はめめだろ。（みんなたちあがっていく）

めめ　 何で僕が覗き魔なんですか、このエグッさん！

エグッさん　俺は何も言ってねぇだろ。この覗き魔！

大ちゃん　 俺のことちゃう、今はそこのデバカメ踊り盗人のこと言うとんや。

マサシ　 何だそりゃ、この野郎！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

また口論、胸のつきあい。やがて、めめ一人的になって首しめられる。

今までぼーっと見ていたタケシが止めに入って、力に任せてみんなを投げ飛ばす。みんなタケシに唖然。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ すいません。改めてあいさつさせていただきます。今日からこちらにお世話にかるタケシです。酒屋さんの事よく知りませんが、僕も仲間に入れて下さい。青木さんって何ですか？　イモもわからないし、わからない事ばっかりなんです。（と頭を下げる）

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

すると他の四人、ちょっとしらけた感じで、黙り込む。ギター、「星は何でも知っている」を弾き始め、四人歌い出す。一番を歌い終わると、ギターの音色に乗って、ポツリ、ポツリしゃべり出す。

☆誰が一番、青木さん家の奥さんに好かれているか？　気に入られているのか？☆

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ　 やっぱり、小雪、かなア……。

めめ いや、あれは、仲間ゆきえと違います……。

エグっさん　いやいや、あれは杉本彩や。

大ちゃん ローマの休日のヘップバーンよりきれいやで。

タケシ　 ……あ、あの……僕は、ノリピーが好きです。

エグッさん オイー

マサシ　 誰がお前の好きなタレント言えって言ったんだ？　今、青木さん家の奥さんの事言ってんだろう！・・・

めめ この御町内で、ナンバーワンの奥さんでな。

エグっさん　出る所出てる、ひっこんどる所ひっこんどる、ボンキュボーンッやＩ

大ちゃん ローマの休日のヘップバーンより美人かも知れんで。

タケシ　 あ、外人ですの？

大ちゃん　 まだ言うか！

マサシ　 この御町内、御近所、ナンバーーの奥さんで、一番美人の奥さんでな、うちの配遠の中じゃ、俺を一番気に入ってくれてる優しい奥さんでな。（みんな座り始める）あ、俺ね、まだ皆には話した事なかったけど、一度だけ、お部屋にあげてもらった事あるんだ！

タケシ・めめ・大ちゃん・エグッさん えっ！

マサシ 綺麗だったぞ奥さんとこのお部屋。プーンといい匂いがしてね、ちり一つ落ちてないの、奥さんキレイ好き、几帳面、普通の人じゃ絶対入れない奥の部屋。静かでね。何か居ごこちがいいんだ。

めめ こーヒーがおいしかったですよね

マサシ　　　えっ！

めめ コーヒーって言ったってインスタントじゃないですよ、あの、喫茶店と同じで、アルコールランプで下からポコポコやるやつ、あの、何でしたっけ？　あ、サイフォンって言うんでしたっけ、モカって知ってますか？　ちょっと酸味が強いけどって奥さんが

エグッさん ケーキは付かなかったのか。

マサシ・めめ えっ！？

エグッさん こーんなに大きなイチゴちゃんが乗っててな、てっぺんに。真白な生クリームの上にね、真赤なイチゴちゃん、ありゃ手造り

大ちゃん　 奥さん料理うまいよな

タケシ・マサシ・めめ・エグッさん 　えっ！？

大ちゃん ワシはカレーくったんやけど、カレ―言うたって、ポークやチキンやないよ、牛な、牛の肉な、でっかい塊で入っとんやで、ボンホーンと。そんじょ、そこいらにはないで、あのカレーは、わしは舌がとろけるかと思うたわ、ホンマ。

マサシ 飲み食いだけか。

タケシ・めめ・エグッさん・大ちゃん　 えっ？！

マサシ　 食いもんとかもらったりとかねそういうアツカマシイことはしたことないけどね。一番奥の部屋に通された時ね、寝ちゃったのよ、そしたらここだ、ここの胸のとこに奥さんの置き手紙。「酒屋さん、ゆっくりお休みになってね………えーと、奥さんより」みたいな事が書いてあったわな、うん。ありゃ、奥さんよっぽど俺の事好きだね。

めめ 寝ただけですか？

タケシ・マサシ・エグッさん・大ちゃん 　えっ！

めめ いや、僕もね、寝た事はないですけど、ちょっと前に配達に行った時にね、シャワー借りたんですよ、そしたら、やっぱり違いますよ奥さん、石っけんなんか舶来品ですよ、あの、何て言ったっけな

エル……エル・ユー。

エグッさん ラックスやろ。

タケシ・マサシ・めめ・大ちゃん えっ！？

エグッさん 奥さんはラックスを使ってるんだよ。おれはな、お前等みたいに、寝たりシャワーあびたり、そんな、ズーズーシイことはしないけどなあ、一っぺんだけ奥さん風呂入ってるとこ観た。

タケシ・マサシ・めめ・大ちゃん　えっ！

エグッさん 「まいどー、酒屋ですけど」言っても奥さん出て来ない。おっかしいなァ思ったら、風呂場の小窓が、ガラガラ開いて、身を乗り出した奥さんの綺麗なうなじに残っとった白いアワがラックス、あれはラックス。世界の女優が使ってるやつだ。

大ちゃん　 観ただけか。

タケシ・マサシ・めめ・エグッさん　 えーーーーー？！

大ちゃん　 俺なんかなァ、俺なんか……一っぺんだけ一緒に入った！

マサシ・めめ・エグッさん　 ウソつけ。たけし　混浴かとつっこむ

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

と、激しい口論と小突き合いになる。その中で、めめが皆を突き飛ばし叫ぶ。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

めめ　奥さんは、そんな人やないんや！　奥さんは、奥さんは、僕の夕焼け空なん

やっ！

タケシ・マサシ・エグッさん・大ちゃん えっ？

ギター 「あした晴れるかな」、めめは語り出し、他の皆は、それを邪魔しない声量でＢＧＭの様に歌う。

タケシ・マサシ・エグッさん・大ちゃん ♪熱い涙や恋の叫びも～輝ける日はどこへ消えたの～♪

メメ　　　あれは、店の定休日。どこへ出かけると言うわけでなく、一日布団にくるまっていた僕が、晩のおかずにと、コロッケを買いに行った市場での事でした。

「あら、酒屋さんじゃない？」

　　　　澄んだ小川のせせらぎの様な声に振り返ると、ほほえむ青木さん家の奥さんが、市場の人ごみの中、何だかキラキラ見えたんです。

「酒屋さん、コロッケ好きなの？」

「ええ、僕大好きなんです」

「それじゃ、私がおごってあげる、私も少し買って行こうかしら」

そう言って注文してくれた奥さん。熟くなった油の中で、僕のコロッケと奥さんのコロッケが踊るの見てると、何だかすごくうれしくなって、「はい、酒屋さんできたわよ、栄養つけてね」

　渡された時ふれ合った小指と小指。

「あら、ごめんなさい。配達がんばってね」

　そう言った奥さんは、僕の小指を握りしめ、

「まア、かわいい小指」

チューと強く吸ったのです！自分で吸う

マサシ・エグッさん・大ちゃん 馬鹿言ってんじゃねぇ

マサシ　 市場の人ごみで奥さんそんなことしねぇよ！

エグッさん いい加減なこと言うな！

大ちゃん たいがいにせえ！　たいがいに！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

とまた胸での小突き合い、すると今度は大ちゃん、皆を突き飛ばし叫ぶ！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

大ちゃん 青木さん家の奥さんはそんな人やないんや、奥さんは、奥さんは、夏の女神さんさ！

タケシ・マサシ・めめ・エグッさん えっ？

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

ギター、「夏まつり」を弾き始め、皆、ＢＧＭの様に歌い出し、大ちゃん語り始める。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ・マサシ・めめ・エグッさん ♪君がいた夏は遠い夢の中～♪

大ちゃん あれは、去年の夏の事でした。お盆の町は、いつもの渋滞も消え、ガラーンとし　て、ただ、ただ暑い昼下り、僕の腰は限界でした。

「まいど、酒屋です。ギクッ！」

「あら酒屋さん大丈夫？」

「ああ、大丈夫です。いつものことですから、ギク・ボキ・グリッ！」

「まあ大変、さ、そこに横になって、私がマッサーージしてあげるから」

「いいえ奥さん、とんでもない、奥さんにマッサージしてもらうなんて」

「いいのよ、いいのいいの、私ね、実は、大学でマッサージ勉強してたの」

「えっ？　奥さん、大学でマッサージを。そんじゃ、すんませんけど少しだけ」

「ここのところかしら」

「ああ、ごっつうええですわ」

「ここは？」

「はぁーたまりません。奥さん、今度は、前の方も」

マサシ・めめ・エグッさん あほなこと言ってんじゃねえ

エグッさん 大学でマッサージ教えるか！

めめ 奥さんの指は細くてマッサージなんかできませんよ。

マサシ デタラメを言うな！デタラメを

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

と、胸の小突きあい。マサシを突き飛ばし、叫ぶ。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ 青木さん家の奥さんはなあ、奥さんは、さびしいんだよ！

タケシ・めめ・エグッさん・大ちゃん えっ！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

ギター、「ケツメイシ涙　か　over the rain」を弾き始め、皆、ＢＧＭの様に歌う。マサシ語り出す。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ・めめ・エグッさん・大ちゃん ♪冷たい雨がほほを濡らしても♪

マサシ あれは、ある雨の日の事でした。僕がいつもの様に配達に行くと、

「奥さーん、　ビール侍って来ました！」

「あら、酒屋さん、いつも御苦労様、今日は雨が降っているから、ベランダの方へは運ばなくていいわ、グスン」

「えっ？でも、これ重たいですよ、運びます」

「いいのいいの、そこに置いといて……」

「そうですか、そんしゃ、重いですから気をつけて下さいね、そんしゃマイドー」と僕が帰ろうとした時

「待って酒屋さん！」

「え？」

「ダメ、振り返らないで酒屋さん」

　どう　したんだろう？　奥さんいつもと様子が違ってるなアと思っていると、雨でグッショリぬれた僕のＴシャツの背中があったかい。フッと振り返ると奥さん僕の背中で泣いている。

「酒屋さん、私、さびしい！」

「え？」

「酒屋さん、今日は、帰らないで」

「……奥さん、帰らなくてもいいんですか！」

めめ・エグッさん・大ちゃん アホッ！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

と、胸の小突き合い。エグッさん皆を突き飛ばし叫ぶ。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

エグッさん　おら、いいかげんにしろっ！　青木さん家の奥さんはなア、青木さん家の奥さんは、俺の海だよ！

タケシ・マサシ・めめ・大ちゃん えっ？

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

ギター、「TSUNAMI」を弾き始め、皆、ＢＧＭの様に歌おうとするが、真っ先にエグッさんが大声で歌い出す。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

エグッさん ♪風に戸惑う、弱気な僕、通りすがるあの日の影～♪

マサシ・めめ・大ちゃん コラ、コラッ！（とエグッさんを蹴飛ばす）三方向からけられこける。

マサシ 何歌ってんだこの野郎！

めめ 皆、語ってるんでしょ、奥さんとのことを。何歌ってるんですか。

大ちゃん 誰れも聞きとうないんや！

エグッさん 歌にこの俺の気持ちを、奥さんに対する気持ちを込めてだなア。

マサシ もういいよ、奥さんとの思い出なんか何も無いんだろお前は！

エグッさん 馬鹿な事言うな。

めめ それじゃ、何で歌ってんですか。

大ちゃん 文章作る能力ないねんな。

エグッさん グダグダぬかすな、話しゃいいんだろ、話しゃ！

大ちゃん 皆、話しとんやしな、一人だけ歌ってごまかすなや。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

とエグッさん、皆から責められ、ヤケクソになって立ち上がり皆を突き飛ばし

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

エグッさん 青木さんの家の奥さんはなア、奥さんは、俺の海だよ！

タケシ・マサシ・めめ・大ちゃん えっ？

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

ギター、「ああ青春」を弾き始め、皆、ＢＧＭの様に歌い出す。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ・マサシ・めめ・大ちゃん ♪佐是に戸惑う、弱気な僕通りすがるあの日の影♪

エグッさん テトラポットが夕陽に染まる頃・・・。

マサシ・めめ・大ちゃん （その一節を聞くやいなや）似合わねぇよ！（とエグッ

さんを蹴飛ばす）さっきと同じ

エグッさん 何するんやコラー・

めめ 海の話は似合いませんよ。

大ちゃん 身の程を知れ、身の程を。

エグッさん ロマンチックで、ピッタリじゃないか俺に！

マサシ 説得力がないんだよ文章に、取って付けた様な話は。

エグッさん 事実を言ってるんだろ俺は！

大ちゃん もっとましな事実作らんかい！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*

グッさん うるせえうるせえ！　青木さん家の奥さんはなア、奥さんは、俺の海だよっ！

タケシ・マサシ・めめ・大ちゃん えっ！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

（三度目のくり返しともなると、「えっ！」もあまりやる気がない）

ギター、またまた、「ああ青春」を弾き始め、皆、ＢＧＭで歌おうとする。すると、意表をついてタケシが大声で歌い出す。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ ♪見つめあ～うとすなーおにおしゃべりできない♪

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん何でお前が歌うんだよ！（とまずエグッさんに蹴ろうとする）

タケシ （逃げながら）ちょっと、ちょっと待って、だって僕まだ一曲しか歌ってないし。小林足ブルブルしながら言う。そして舞台裏へ右から入る

エグッさん 何言うとんしやコラ。（と、更に蹴る）

　　　　　　タケシエグッさん大ちゃんメメマサシの順で追いかける。裏ではドタバタと音を当てる。そして、なぜか大ちゃんとエグッさんが先に出てきて、その後メメ、マサシと続き肝心のタケシがいない、皆が武を探し始める。

　　　　　　そこにタケシ遅れて息を切らしてやってきて

タケシ ちょっと、待ってくださいよ、それに、僕も行きたい！（みんなが動き止まる。少し間を開けて）

僕も青木さん家行きたい！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

皆、絶句して動けない。顔を見合わせ何か言おうとするが言葉にならない。長い間がある。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ ……お前、今……。

タケシ はい？

マサシ お前、今何て言ったの？

タケシ えっ？　はァ、あの、僕も青木さん家に。

マサシ バカ野郎、言うな言うな！

タケシ ヘ？

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

皆、顔を見合わせ、険しい顔つきになりタケシに詰め寄る。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ お前、何も知らねぇんだろ？・

めめ お前、店の事、何もしらねえだろ。

エグッさん 配達の事もわかねえだろ。

大ちゃん 青木さん家の奥さんのことも知らんやろ。

マサシ なのに、青木さん家に行きたいってのは何だよ。

タケシ いや、皆さん何や楽しそうやし。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん 何だよ。

タケシ 美人の奥さんや言わはるし。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん 何だよ。

タケシ 何や、うらやましいなァ思うて。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん 何だよ。

タケシ だから。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん 何だよ。（言いながら一歩近付いている）

タケシ えーと。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん 何だ、何だ、何なんだよ！！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

皆のすごい気迫に、何か大変な事を口走ってしまった様な気になり、大急ぎでイモの芽をむき始める。四人、タケシをにらみつけ無言。

タケシ、冷たい視線に耐えながら芽をむく。四人無言。

タケシ、ちょっと顔を上げ、皆の顔を見て、はほえんでみる。四人無言。

タケシ、一生懸命イモの芽を取るが、なんか居たたまれない気侍ちになって顔を上げ泣く

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ うっ、うう～。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん 泣くなよ！

タケシ ううう……。

マサシ 泣くことねぇだろ。

エグッさん 何、泣てんだよコラ。

大ちゃん 泣くなや。

めめ 泣いてどうすんだよ。

タケシ ううう……。

めめ コラー　泣くな！　泣くなって！　何、泣いてんだよ

タケシ 行きたい！　うう……。

エグッさん 何？

タケシ うう、僕も青木さんとこ……うう。

大ちゃん 泣く程の事か！

タケシ ううう……。

マサシ　 泣くなよ、もう……。泣くな！　……めめ！

めめ 何ですか？

マサシ 泣かすなよ。（と知らん顔）

めめ 僕じゃないでしょう。泣かしたのはエグッさんで。

エグッさん オイ、何で俺なんだよ。大ちゃんがキツイこと言うからだろ。

大ちゃん そこの人でなしが泣かしたんや。

マサシ 何で俺が人でなしだよ！

タケシ ううう……。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん ……。

マサシ そんなに行きたいのかよ。

タケシ うう、はい、ううう……。

マサシ はい、じゃないよ……。俺はいいよ、俺は。

タケシ ヘ？

マサシ 俺は別にいいんだよ、お前が行っても、そんな、ケツの穴の小せぇこと言うつもりはないんだから、でもね、ほら、めめが・・・・・・ね、意地が悪いから。

めめ またそういう事を言う。僕はいいですよ僕は。

マサシ あれ？（と顔色うかがう）

めめ いいですよ、全然かまいませんよ、でもね、エグッさんが。

エグッさん わしん所へ話侍って来るなよ、俺は、かまわないんだから。

マサシ あれ？　（と顔色うかがう）

エグッさん かまわないよ、まったく、でも大ちゃんがなア……。

大ちゃん わしもええよ。

マサシ あらーっ？　（と顔色うかがう）

大ちゃん ええよ。

マサシ ……いいのかよ。

めめ・エグッさん・大ちゃん ええよ。

マサシ 本当にいいの？

めめ・エグッさん・大ちゃん いいって言ってるだろ（ええ言うとるやろが。）

マサシ あれ、おかしいなア……。いいんだな！　そんじゃいいよ、皆がいいって言うんなら、いいよ。（と顔色うかがう）

大ちゃん そんじゃ、ええやん。

タケシ え？　本当ですか？

めめ 行ってもらいましょうよ。ねえ、久しぶりに入って来た新人だし、歓迎の意味も込めて、えーと、何君だっけ？タカシ君？

マサシ　　　タワシ君？

エグっさん　ワタシ君？

大ちゃん　　ソレガシ君？

タケシ あの、タケシです。（と泣き止んで）

エグッさん あぁ、そう。じゃああのタケシ君に行ってもらうと言う事で。

タケシ タケシですタケシ、あのタケシじゃないです。

大ちゃん はいはい、タケシ君ね。タケシ君に行ってもらうって事でいいかな？

めめ いいですよ。

エグッさん いいよ。

マサシ ……そうなの……。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

伝票を誰れが持っているのかわからない。「それじゃ、行って来い！・」と伝票を出す者がいれば、即、手の平を返してそれを奪い合いそうな殺気立った空気が漂う。が、誰れも伝票を出す者はいない。見ると、タケシ１人が元気づいてニコニコしている。あとで編集

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ さて、そんじゃ行きましょうかね。あの、何持って行ったらいいんですかねえ、あ、ビール？　酒ですか？あれ、俺、道わからないな、どうしようかなァ。地図書いてもらえませんか？

マサシ （誰れも伝票を出さない事、おかしいなァと思いながらも）何、はしゃいでんだお前は。

タケシ いや、道しらないんで。

めめ えーっ！

タケシ 何ですか？

エグッさん 何ですかやないやろ、お前、何を配達するつもりや？

タケシ えーと、ビール？　酒ですか？　地図書いてもらわないと。

大ちゃん なめてんの？

タケシ ヘ？

マサシ お前、何も知らないだろ。配達の事、青木さんの事。

タケシ はァ……。

マサシ 困るなァ、そんな簡単に配達はできないよ。

タケシ え？

エグッさん お前みたいな素人がホイホイ行って、何か失礼なことでもしたらどうするんだ？

大ちゃん 失敗したらどないすんのや？

タケシ はァ……。

めめ お得意さん、皆そっぽ向いてしまうじゃないか。

エグッさん 俺らの責任になるじゃないか。

タケシ はァ……。

大ちゃん 皆クビや、お前、何とかしてくれるんか？

タケシ ああ……。

マサシ マズイじゃないの練習しなきや。

タケシ はい？

めめ バカ野郎！　しなきやマズイだろ練習。

タケシ はァ、そうですねえ。

エグッさん した方がいいだろ練習。

タケシ はい、そうです。

大ちゃん お前だってしたいやろ練習。

タケシ はい、したいです。

マサシ そう言う時は、何て言うの？

タケシ えーと……ヨロシクお願いします。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん ……しょうがないなァ。

マサシ そんしゃ、ちょっと俺達が教えてやるから。

タケシ はい、お願いします。

マサシ めめ。配達セット。

めめ はい。

タケシ え？

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

めめ、ビールをワンケース持って来てタケシの前へ置く。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ 何するんですか？

マサシ　 何するんですかって、お前、これ持てなきや配達できないだろう。物理的に、重いんだよ、これ。

タケシ ああ、このぐらい大丈夫です。（と待ち上げようとする）

エグッさん こらこらこら！　（とそれを止めて）

タケシ え？

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

めめ、もうワンケースのビールを持って来て重ねる。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ 青木さん家はいつも２ケースいっぺんに注文来るから。

タケシ えー？

めめ 奥さんは大ビンが好き。

タケシ これ、二ついっぺんに待かなア持たないといけないんですか？

エグッさん 当り前じゃないか。

タケシ 一つずつじゃァ。

大ちゃん 配達は迅速に、ってのがうちのモットーやから。

タケシ えー。

エグッさん イヤならいいよ、イヤなら。（と片づけようとする）

タケシ ああ！　わかりました、やります、やりますよ。ガンバリます。

マサシ まあまあ、エグッさんもタケシ君を励ましてあげなきや。

エグッさん　おお、あのなァ、青木さん家の奥さん、バスト９６センチ。

大ちゃん ボンボーン。

タケシ うわあ。

マサシ よーし、そんじゃ待ってみよう。

タケシ はい！

めめ それ行け！

大ちゃん 気合い入れろ！

タケシ ウリャーー　（と待ち上げてしまう）

マサシ ……あらァ……。（と予想外の力にビックリ）

大ちゃん お前、腕太いなァ。

めめ 背筋もあるし。

エグッさん ケツの穴も締まっとる！

マサシ やっぱり高校時代の鍛え方が違うなァ。

タケシ はい、野球やってましたから。

エグッさん そうか野球か、そりゃスゴイ。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

めめ、１０㎏入りの米を担いで来て、二段重ねのビールケースの上に置く。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

めめ はい。

タケシ え？

マサシ 次は、米１０㎏ね。

タケシ 米もですか？

大ちゃん バカ、奥さんビール飲んで生きてんじゃないんだよ、御飯だって食べるの、ね、食べれば減る、減れば注文が来る。

タケシ しかし、これ１０㎏でしょう。

めめ 奥さんは１０㎏が好き。

タケシ はァ……。

エグッさん イヤならいいよ、イヤなら。（と片づけようとする）

タケシ いいえ！　やります、やりますよ。

マサシ まあまあエグッさんもタケシ君を励ましてあげなきや。

エグッさん おお、あのな、青木さん家の奥さんウエスト５８㎝。

大ちゃん きゆーっ！　（とウエストを絞ったポーズ）

タケシ うわあ。

マサシ よーし、そんじゃ持ち上げてみよう！

タケシ　　　はい！

めめ それ行け！

大ちゃん 気合い入れろ！

タケシ ウリャー！　（と持ち上げてしまう）

マサシ ……あらア……。（と予想以上の力にビックリ）

大ちゃん お前、腕太いなア。

めめ 背筋もあるし。

エグッさん ケツの穴も締まっとる！

マサシ やっぱり、高校時代の鍛え方が違うなア。

タケシ はい、野球やってましたから。

エグッさん そうか、野球か、そりゃスゴイ。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

めめ、日本酒の一升ビンと醤油の一升ビンを持って来て、二段重ねのビールとその上の米１０㎏のそのまた上に置く

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ あれ？

マサシ この様に、お酒とお醤油を乗せますね。

大ちゃん　　　ビール飲むんだから酒も飲むよ奥さん。

めめ　　　　醤油だって大量に使うんだ奥さんは、濃い昧が好きだから、奥さんは。

タケシ こんなに積んだら安定が悪いんじゃないだすか？。

大ちゃん　 大丈夫や、俺達はいつもこうやって配達するんやから。

タケシ はァ……。

エグッさん イヤならいいよ、イヤなら。

タケシ イヤじゃないですよ、やりますよ。

マサシ まあまあ、エグッさんもタケシ君を励ましてあげなきや。

エグッさん おお、あのな、青木さん家の奥さんヒップ９８㎝。

大ちゃん ドーン！

タケシ うわあ。

マサシ よーし、そんじゃ持ち上げてみよう！

タケシ はい！

めめ それ行け！

大ちゃん 気合い入れろ！

タケシ ウリャー！　（と待ち上げてしまう）

マサシ ……あらァ……。（と予想を越える力にビックリ）

大ちゃん ……お前、腕太いなァ。

めめ 背筋もあるし。

エグッさん ケツの穴も締まっとる！

マサシ うーん、やっぱり、高校時代の鍛え方が違うなァ。

タケシ はい、野球やってましたから。

エグッさん そうか、野球か、そりゃスゴイ。

大ちゃん お前、まさか待ち上げるとは思わんかったわ、わしこれ待つのに二年かかったんよ。

マサシ 僕、二年半かかりました。

エグッさん 俺なんか三年だよ。

メメ 僕なんかいまだに持てない。

マサシ びっくりしたなぁ、もしかすると、これは久々に入って来た大型新人かも知れないよ。

タケシ そうスか？　（と照れる）

めめ 日本期待の従業員！

タケシ そうスかねえ。

マサシ もう何も心配ない、こんだけできれば。大丈夫！

めめ ガンバって行ってらっしゃい。

エグッさん 自信持って。

大ちゃん 任したで！

タケシ はい・‐‐・

マサシ 青木さん家は団地の五階だから。

タケシ ……へ？

マサシ へ？て何？

タケシ あの。

めめ エレベーターはないよ。

タケシ えーっ！

エグッさん お前、新人のくせにエレベーターで配達しようと思ってたんじゃない

よな？

大ちゃん 馬鹿、団地や団地。

マサシ こりゃマズイねぇ、そう言う甘えた心がまえじゃ、お前、エレベーターあるつもりで行って階段しかない、なんて事多々あるのよ、絶望的なシチューエーションが。困ったなァ。これもやっといた方がいいなァ……。よし、そんじゃお前、それ持ってあれやれ、ヒンズー・スクワット、五十回！

タケシ　え１！　これ待ってですか。

大ちゃん アホ、見ながらやっても、しゃァないやろ。

めめ お前、試合前に三千回やる格闘家もいるって言うぞ。五十回なんてアッと言う間じゃないか。

タケシ でもなァ……。

エグッさん イヤならいいよ、イヤなら。

タケシ 待って下さいよ、イヤじゃないです、すけどね。

マサシ できなきや行けないんだよ、もう、エグッさん励ましてあげなきや。

エグッさん おお、あのな、青木さん家の奥さん、足２８㎝。

めめ 俺よりデカイよ。

大ちゃん ちゃんと励ましてやれよ。

マサシ　 よーし、そんじゃ、やってみよう！

タケシ　 え！……はい。

めめ それ行け！

大ちゃん 気合い入れろ！

タケシ ウ、ウリャーー　（と持ち上げようとする）

エグッさん　待った！

タケシ ヘ？

エグッさん イモ忘れた。

タケシ ヒー！

めめ ビニールケースの酒と米と……一箱いっちゃいますか。（とイモを乗せる）

タケシ ちょっと、ちょっと。

マサシ さア、行ってみよう！

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

皆、コンバットマーチを歌いタケシを応援するが、ビールニケース、一升ビン二本、米１０㎏）でヒンズー・スクワットはキツイ。普通は、一回もできない、プロレスラーでも五十回はできないんじやないかと思う。しかしタケシには、二回ぐらいはやって欲しい。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

タケシ （配達セットを置いて、ヘナヘナと）　アキマせん、ダメですわ。

エグッさん こいつ二回もやったよ。

タケシ え？

マサシ 五十回なんてレスラーでもできねぇよ。本気でやるなよ。

タケシ だって。

めめ お前の根性を見たかっただけやないか。

大ちゃん 合格！　それだけやる気があれば大丈夫や、ＯＫＩ

タケシ いいんですか？

マサシ 問題ない！　お前はスゴイー

タケシ 良かった、そんじゃ行っていいんですね青木さん家。

エグッさん ああ、いいよ、ステップ・ジャンプが終わればな。

タケシ 何ですか？

エグッさん これは、ホップじゃないか、次のステップとジャンプもできれば大丈夫だ

タケシ まだあるんスか？・

マサシ バカ、お前、うちは客商売だよ、サービス業。何も知らないお前がだ、向こうへ行って何か失礼な事してしまったらどうすんだ？

タケシ はァ……。

めめ お得意さん、皆そっぽ向いてしまうじゃないか。

エグッさん 俺らの責任になるじゃないか。

タケシ はァ……。

大ちゃん 皆クビや、お前、何とかしてくれるんか？

タケシ はァ……。

マサシ マズイじゃないの練習しなきや。言葉使い、礼儀作法、ね。

タケシ はァ。

めめ バカ野郎、マズイだろしなきや練習。

タケシ そうですねえ。

エグッさん した方がいいだろ練習。

タケシ はい……。

大ちゃん お前だってしたいだろ練習。

タケシ はい、したいです。

マサシ そう言う時は、何て言うんだ？

タケシ ……よろしくお願いします。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん ……しょうがないなァ。

マサシ じゃ、俺達が付き合ってやるから、常識だから、お客様には丁寧に、気を遺って、な、何も特別な事じゃないの、簡単だから。

タケシ はい。敬語とかちゃんと使って、常識ですね。

マサシ そうそう。そんじゃね、俺が青木さんちの奥さんやるから

大ちゃん　　いやいや、わしがやろう。

エグっさん　いやおれがやるよ

めめ めーめーがーやーるーの～

みんな突然のことに引きながらめめに譲る

めめ オ、シャア。

マサシ （めめを下手の舞台面へ連れて行き）　ここ、台所ね。そんで、エグっさんがドア、

タケシ これドアですか？

マサシ エグッさんの鼻押してみな。

エグッさん （タケシに鼻を押され）ピンポーン。

マサシ　　　で、余った大ちゃんは、玄関マットでもやっててよ。

大ちゃん　　何でわしが玄関マット何ぞやらにゃあかんのや

まさし　　　大ちゃんにしか頼めないことなんだ。頼むよ

大ちゃん　　じ、じゃあ、仕方がないのぅ

マサシ　　　じゃあ始めようか、奥さんが奥でたまねぎを切って

大ちゃん　　ちょっと待てや

マサシ　　　何？

大ちゃん　　お前も何かやれや

マサシ　　　えっ！

エグッさん　そうや、まな板なんかどうだ？

マサシ　　　何でおれが？

大ちゃん　　マナ板とヤカンの役なんてお前にしかできん。頼むよ。

マサシ　　　なんか増えてる気もするけど・・・まぁそういうことならやってやろう。

マサシ ほらな。奥さんが、奥の台所でタマネギか何か切ってるわけだ、そこへお前がインターホン押して配達に来るって所からやってみよう。常識だから、丁寧に、気を遣ってな。

タケシ はい。

マサシ そんじゃ行くよ、奥さんが奥でタマネギを切っている。

めめ ストン、トントントントン……。（とタマネギを切る真似）

タケシ （エグッさんの鼻押して）

エグッさん ピンポーン。

めめ あら、誰かしら？　どなた？

タケシ まいど、酒屋です。御注文の物待って未ました。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん あーあ。

タケシ えっ！　何ですか？

大ちゃん お前何しとんや！

エグッさん ちゃんとやれよ。

マサシ お前、人の話聞いてんのか！　気を遣えって言っただろ！

タケシ 何かマズかったですか？

マサシ マズかったよ、おおいに！（団地の御近所の奥さん風に）

マサシ　　　「奥さん、奥さん見ました？」

エグッさん　「青木さん家の奥さん。お醤酒一本でも配達頼むのよ、」

大ちゃん　　　「モノグサね、横着ね、横柄ねえ」

エグッさん オー最低！

めめ うちはいつもたくさん注文しているのに。（とうつ向く）

マサシ ほら、どうするんだ、奥さん悲しむぞ！

タケシ 酒屋だってバレちゃいけないんスか？

めめ いけないだろ普通。

タケシ そんじゃ、バレない様に行かないといけないんですか？

大ちゃん それが気を遣うと言う事じゃないか？　サービスの心だろ。頭使えよ。

タケシ はい、すいません、もう一度お願いします。

マサシ ちゃんとやれよ！　奥さん、奥で夕マネギ切っている。

めめ ストン、トントントン……。

タケシ （エグッさんの鼻を押す）

エグッさん ピンポーン。

めめ あら、誰れかしら？　どなた？

タケシ すいませーん。ＮＨＫです。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん あーあ。

タケシ 何でですか？

大ちゃん お前何しとんや！

エグッさん ちゃんとやれよ。

マサシ お前、人の話聞いてんのか！　気を遣えって言っただろ！

タケシ 遺いましたよ、ちゃんと。

マサシ 「奥さん、奥さん、見ました？」

エグッさん　「青木さん家の奥さん。回覧板に、ＮＨＫに受信料の催促にこられてるわよ。」

大ちゃん　　「ケチね、ガメツイね、守銭奴ね」

エグッさん はあー、最低！

めめ うちはいつもちゃんと払ってるのに。（と泣く）（受信料未払い設定に変更します）

マサシ どうするんだ！　奥さん泣いてるしゃないか！

タケシ だって、そんなの、どうしたらいいんですか……？

マサシ もう、そこへ直れ！　見本見せてやるから、気を遣うのよ、お客様への気遣い。いいか、奥さん、奥でタマネギ切ってる。

めめ ストン、トントントン……。

マサシ （エグッさんの鼻押し）

エグッさん ピンポーン。

めめ あら、誰かしら？　どなた？

マサシ ニャーオ。（と猫の真似）

めめ いつもの酒屋さんね。

タケシ 何ですか、それ！

マサシ バカ、気を遣うってのはこう言う事だろ。

マサシ　　　「奥さん、奥さん、見ました？」

エグッさん　「青木さん家の奥さん。おなかをすかしたノラ猫を部屋に入れてあげて、エサあげてるらしいわよ」

大ちゃん あらま、優しい奥さんやねぇ。

エグッさん できた奥さんね、なかなかいないわよ、あんないい人。

めめ 嬉しい。

マサシ ほらな、奥さん喜ぶだろ。

タケシ そんなんでええんですか。

マサシ そんなんとは何だ、そんなんとは！　そんなん、なんてお前に言われる筋合いは無いよ、こんなんもできない奴に。

タケシ スンマセン。

マサシ 頭使えよ。配達は力だけじゃダメなんだよ、頭使わなきや。やれ！

タケシ はい。ョロシクお願いします。

マサシ 奥さんタマネギを切っている。

めめ ストン、トントントン……。

タケシ （エグッさんの鼻を押す）

エグッさん ピンポーン。

めめ あら、誰かしら？　どなた？

タケシ ニャーオ。

めめ いつもの酒屋さんね。

大ちゃん ガチャ。（とドアの開く動き）

タケシ あの、御注文の物持って来ました。

めめ えーと、あなた、どなた？

マサシ ほれ、自己紹介！

タケシ あ、あの、今度新しく入りましたタケシです。よろしくお願いします。

めめ ああ、新人さんね。

タケシ はい、そうです。

めめ それじゃ、奥へ運んでちょうだい。

タケシ はい。（とビールの空ケース一つ持って入って行く）

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん あーあ。

タケシ え？

マサシ 何だ何だ土足でズカズカと！

タケシ 違います、違いますよ、これは、まだ玄関のタタキの所で。

大ちゃん　 タタキの所アカンやろ土足で入ったら。

タケシ ヘ？

大ちゃん ええか、玄関と言うのはな、その家の人やお客さんが使う所なの、配達は土足で玄関入ったらアカンの。

タケシ そうなんスか！？

大ちゃん もうええから見とけ教えたるから。ええか、配達は、な、まず、玄関の外で靴ぬいでそこで正座、（と正座して）深く一礼したら、顔を上げながら廊下の向こうをうかがってや、障害物が無いかどうか確認。そんで後ろに立ち上がり、（立ち上がって）　玄関の外にぬいだ靴の上からビール持ってジャンプ（と飛んで）タタキ飛び越えて玄関マットの上へ着地や。

めめ キレイー

タケシ はー、そんな決まりがあったんですか。

エグッさん 決まりじゃないやろ、心遺いやろ！

マサシ 非常識だなアお前は、こんなことも知らないで、何もわかんねえ奴だなア。そんなことじゃ配達任せられないよ！

タケシ 夢にも思わなかったスわ。

マサシ 早く部屋の中へ入れよ、お前まだ、玄関から一歩も中入ってないんだよ、何やってんだよ。

タケシ すんません。

マサシ やれ、初めっから。

タケシ はい。

マサシ 奥さんタマネギを切っている！

めめ ストン、トントントン……。

タケシ （エグッさんの鼻を押す）

エグッさん ピンポーン。

めめ あら、誰れかしら？　どなた？

タケシ ニャーオ。

めめ いつもの酒屋さんね。

大ちゃん ガチャ。

タケシ まいど、御注文の物持って来ました。あの、新人のタケシです。よろしくお願いします。

めめ あら、そう。それじゃ奥へ運んでちょうだい。

タケシ はい。（さっき、大ちゃんのやった通りに正座して、廊下の様子をうかがって、ジャンプして玄関マットの上へ着地する）

大ちゃん そうそう、そうすりゃええの。

タケシ できました？　やった！

マサシ　　　何やってんだよお前、まだ玄関一歩入っただけだよ、ハ・イ・タ・ツのハの字ぐらいしか行ってないよ。

タケシ スンマセン。

マサシ やれ早く、お前、まだ玄関だよ。

タケシ ガンバリます。

マサシ 飛んで来る所からでいいから、ほれ、行くぞ、飛んで来た！

めめ ……もう、しようがないわねえ、じゃ奥へ運んでちょうだい。

大ちゃん ほら、ヤッタゾ！

タケシ はい、それじゃ？　（とビールの空ケース待って奥へ行こうと二・三歩踏み出す）ここまで変更

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん ああっ！・

タケシ 何ですの！

マサシ お前、何ゃってんだよ。

タケシ ちゃんとゃってるしゃないですか。

エグッさん 廊下をぺ夕べ夕歩くな！・

タケシ ヘ？

エグッさん バカ、俺達は一日中配達しとるやろ、靴下汗でベトベトよ、青木さん家の美しく磨き上げられた廊下に足跡ついちゃうじゃねぇの！

タケシ それじゃ、歩けないじゃないスか？

エグッさん もう、どけどけ、手が焼けるな、この甘ったれは！　いいか、廊下の壁際をつま先で歩くんだ。（とやって見せる）

タケシ ありゃ！・

エグッさん あらまア、酒屋さんたら、そんなに気遣わなくてもいいのに、ってな、奥さんだって喜ぶぞ。

タケシ なる程……。

マサシ はい、やれ！　飛んで来た！

タケシ そこからですか？

マサシ 早く！　何時間やるつもりだお前は！　もう皆（お客さん含めて）半分イヤんなってんだぞ、飛んで来た！

めめ じゃ、奥に運んでちょうだい。

タケシ はい。（とビールの空ケース持ってつま先で壁際を歩く）

めめ （タケシを案内して舞台を一周し、ベランダと思われる所を指し）　ここへ置いてちょうだい。

タケシ はい。（と、空ビールケースを置く）

めめ （また一周戻って来て玄関へ）

タケシ （つま先で壁際を歩き、ついて行く）

めめ どうも、御苦労様。

タケシ いいえ。……これでいいんですか？

マサシ いいんだよ、続けて。

タケシ えーと、それじゃ、どうもありがとうございました。またョロシクお願いします。

タケシ　　　それじゃどうもマイドー！　（と大ちゃんのドアを閉める）

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん あーあ。

タケシ えーっ！

エグッさん せっかくここまで来だのに。

タケシ ちゃんとやったでしょ。

マサシ やってないよ、お前、入る時何て言って入って来たんだよ。

タケシ え？・・・・・・ああ、ニャーオ。

エグッさん だろ、せっかくニャーオでごまかして入って来だのに、マイドーって帰ったら、「あっ、酒屋さんが来てるわよ！」　って御近所にバレちゃうしゃねぇの。

タケシ すんません。うっかりしてました。

マサシ 入って来た時はニャーオだろ。て事は、ニャーオって入って来たな、お腹をすかしたノラ描ちゃんがだ、優しい奥さんにエサもらって幸せな気持ちで帰るわけだろ、て事は、帰る時は、……ゴロニャーオじゃないの。

タケシ はァ……。

マサシ はい、飛んで来た！

タケシ えー！

マサシ じゃいいよ、その玄関へ帰って来たところからで。

タケシ はい。

めめ どうも御苦労様

タケシ はァ、どうもありがとうございました。また、ヨロシクお願いします。（とズボンを上げ）　それじゃ、ゴロニャーオー　（と大ちゃんのドアを閉める）

大ちゃん ガチャ。

マサシ できたじゃないか。

タケシ できました？　いいんですか今ので！？

めめ やっとできたよ、あー疲れた！

タケシ ありがとうございます。

めめ お前みたいに飲み込みの悪い奴は初めてだよ、本当に。

タケシ ありがとうございました。

エグッさん まァ、これだけここで間違えとけば、もう大丈夫だろ。間違える所残ってないからなァ。

大ちゃん ギリギリで合格って事にしといたろ。

タケシ 本当、ありがとうございました。

めめ じゃ、通し稽古ね。

タケシ ヘ？

めめ 通し稽古。

マサシ バカ野郎、お前、普通本番前は通し稽古するだろ？　・・・・・・あら、お前、信じらん　ねぇなァ、やらないつもり？　本番前に通し稽古しなかったら大変な事になるぞ、他人ごととは思えんぞ俺は！

タケシ　　　はあ

めめ　　　　やんなきやマズイしゃねぇか、オイ。

タケシ はァ、そうですねえ。

エグッさん やった方がいいだろ？

タケシ はい。

大ちゃん お前だってやりたいだろ？

タケシ あ、やりたいです、はい。

マサシ そう言う時は何て言うんだ？

タケシ ……ョロシクお願いします。

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん しようがないなァ。

マサシ 俺達が付き合ってやるから。しっかりやれよ、緊張しろ緊張！　お前は緊張感がたりないから間違えるんだから、いくぞ！

タケシ はい。やらせていただきます。

マサシ いいか失敗すんなよ、一発でクリアしろよ。

タケシ はい。

マサシ 奥さん、奥で夕マネギを切っている！

めめ ストン、トントントン……。

タケシ （エグッさんの鼻を押し）

エグッさん ピンポーン。

めめ あら、誰れかしら？　どなた？

タケシ ニャーオ。

めめ あ、いつもの酒屋さんね。

大ちゃん ガチャ。

タケシ どうも、酒屋です。今度新しく入りましたタケシです。ョロシクお願いします。

めめ 新人さんね、それじゃ奥へ運んでちょうがい。

タケシ はい。（と玄関の外で靴をぬぎ、そこへ正座、深々と頭を下げて、顔を上げ際に廊下をうかがい、空ビールケース侍ってジャンプして玄関マ

ットの上に着地）

めめ 奥へ運んでちょうだい。

タケシ はい。（とつま先で壁際を歩き、ベランダにビールケース置いて帰って来る）どうもありがとうございました。またヨロシクお願いします。

めめ 御苦労様。

タケシ ゴロニャーオ。

大ちゃん ガチャ。

マサシ ……できたじゃないか。

タケシ おお、やった、できた！

マサシ ホッとしたのはこっちだよ、お前がどっかで間違えたら、また付き合わなきゃなんないんだよ、ハラハラしたよ、何か空気が張りつめたぞ。

タケシ どうも、ありがとうございました。

めめ ま、何とかなるんじゃないですか？

エグッさん 大丈夫だろ。

大ちゃん こんなとこやな。

タケシ じゃ、行ってもいいんですか、青木さん家？

マサシ ガンバって行って来い？　な、俺達が教えたんだから、付き合ったんだから、俺達が大丈夫だって言ってんだから。

タケシ はい！

マサシ めめ、配達セットー

めめ はいよ！　（とさっきと同しビールニケース、来10㎏、酒と醤油、

それとイモを重ねてタケシの前へ置き）

マサシ あとは自信だけだぞ、向こうへ行ってオドオドすんなよ、元気よく、気合い入れて、なっ、思い切りやって来い！

タケシ はい。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

皆、コンバットマーチ歌って応援する。その中、タケシは配達セットを力いっぱい持ち上げる。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

マサシ・めめ・エグッさん・大ちゃん オーッ！（と拍手）

めめ ガンバって来いよ。

エグッさん 気をつけてな。

大ちゃん はりきってや！

タケシ はい！　で、あの……場所。

マサシ 何？

タケシ すんません奥さんどこに住んでるんですか？

マサシ おお、待ってろ、今地図持ってくる

マサシ退場

タケシ　　　ところで、奥さん何で団地なんかに住んでるんですか？

大ちゃん　　それはだな、・・・・・あれ？なんやったっけ？

めめ　　　　なんでって、決まってるじゃないですか。・・・・・あれ？どうして奥さんあんなとこ住んでんだっけ？

エグっさん　なんだ？忘れたのか？まったくこれだから奥さんへの愛情に欠ける奴らは

メメ・大ちゃん　う、うぅ

エグっさん　奥さんの愛にあふれる俺はしっかり覚えてるぞ。・・・・・・ほら・・あれだ・・なんて言えばいいのかな・・・え～っと

大ちゃん　　忘れたんやろ。

エグっさん　ちがう、誤解するな、世界一情に熱い俺は、薄情なお前らとは違ってちゃんと覚えてるんだぞ。ただ、いま、たまたま思い出せないだけで。

メメ　　　　それを忘れたって言うんですよ

大ちゃん　　ようこそ、薄情な奴らの世界に

タケシ　　　で、結局誰もわからないんですか・・・役にたたねぇなぁ

メメ・大ちゃん・エグっさん　　あん？なんか言ったか？

タケシ　　　い、いいえ。別に何にも言ってませんよ

メメ・大ちゃん・エグっさん　本当にぃ？

タケシ　　　と、ところで、俺の猫の鳴きまねどうですかねぇ？やるからには極めてみたいなぁと思うんですけど。

めめ　　　　まだまだだね。

タケシ　　　ってことは・・・

メメ　　　　バカ野郎！しなきゃまずいだろう練習

タケシ　　　はい。よろしくお願いします。

メメ　　　　しょうがないなぁ

大ちゃん・エグっさん　ちょっと待てよ。俺らを飛ばしていくなよ。

タケシ　　　すいません

エグッさん　まぁ、いいけどさ。じゃあ、ほらあそこに猫がいるだろ。

　　　　　　あれを鳴き声のまねで振り返らせるんだ。

タケシ　　　え、そんなことできるんですか？

エグッさん　いやならいいんだ。いやなら

タケシ　　　いやじゃないですよやりますよ。

タケシ　　　にゃ～

　　　　　　にゃ～

　　　　　　にゃ～。にゃ～

大ちゃん　　だめやな、お前のそんなか弱い声であのレディが振り返るわけないやろ、よう見とけ

　　　　　　にゃ～ぉ

エグッさん　ばかばか、お前それじゃまるで猫バスじゃないか。なってないよ。こうやんの。

　　　　　　にゃ～ぉ

（・・・・・・）

タケシ　　　もしかしてオスなんじゃ

　　　　　　（・・・・・・）

大ちゃん　　おぉ、それは考えとらんかった。じゃあもうちょっと。女らしく。

　　　　　　にゃ～ぉ

エグッさん　いやいや、もっと色っぽくセクスィーにだな。

　　　　　　にゃ～ぉ

大ちゃん　　いやいや、女の子はやっぱり清純な方やろ。

エグッさん　いやいや、色っぽいほうがいいにきまっとる

二人で胸ぐらをつかみあう。

タケシ　　　ぼ、僕は清純派がすきです。

エグッさんの手を振りほどいて

大ちゃん　　ほら、やっぱり清純派やないか

エグッさん　うぅ。・・・メメ！メメはどうなんだ？

メメ　　　　（無視）にゃ～ぉ

　　　　　　（猫が反応し鳴き声がする）にゃ～ぉ

メメ　　　　やった！

エグッさん・大ちゃん・タケシ　　えっ！

エグッさん　ま、まぁきっと俺らの泣きまねが届くまでに時間がかかったんだな。

大ちゃん　　お、おおそうだな。きっとそうや案外距離あるしな。

メメ　　　　いやいや、僕の声で反応したんでしょ。ねぇタケシ君

　　　　　タケシの肩に手をかける

タケシ　　　い、いや

　　　　　メメの手に力が入る

タケシ　　　い、痛。そ、そうですねぇ

大ちゃん　　まぁ、わしは犬の方が専門やし

　　　　　　ワン！ワン　！ワォ～ン

エグッさん　俺だって鶏の方が専門だ

　　　　　　コケコッコー

「ワンワンにゃーぉコケコッコ」

「わんわんにゃーぉコケコッコ」

地図持ってマサシ登場

マサシ　　ひひ～ん？いや違うな。ぶるるるる？あれなんだっけなぁ

メメ・大ちゃん・エグっさん　なにやってんの？

マサシ　　いややっぱり犬・猫・鶏ときたらロバでしょ

メメ・大ちゃん・エグっさん　何が？

マサシ　　だから、ブレーメンの音楽隊やってんじゃないの？

メメ・大ちゃん・エグっさん　あぁ

マサシ　　そんで、驢馬の鳴き声ってどんなんだったっけなぁって

めめ　　　確か本ではヒンヒンでしたよね。

タケシ　　あの

大ちゃん　やっぱり基本は馬の鳴き声やろ。

タケシ　　あの！青木さんちの場所。教えてほしいんですけど

マサシ　　あぁ、そうだったね。

　　　　　えっと奥さんは確かここの五階に住んでるんじゃなかったっけ

メメ　　　　適当なこといわないでくださいよ。そこは加藤さんちですよ

エグッさん　あれ、確か、加藤さんとこの団地って四階建てだった気が

大ちゃん　　ワシも今そうおもっとった。マサシ、おめぇのいっとる、青木さん地の奥さんって誰の事や？

マサシ　　　え、それじゃあ俺が今まで配達してきた相手は一体？・・

めめ　　　　青木さんちは、ここですよ。

エグっさん　いやいやそこは、肉屋だから。あそこのチキンカツうまいよなぁ。

大ちゃん　　確かに、あれに塩ふって食うとほんまにヤバイであれは、兵器になるであの破壊力は

マサシ　　　いや、あれはソースが鉄板だろ

大ちゃん　　何だと

マサシ　　　なんだ？

メメ　　　　ほらまたそこで下らないことで争ったりしないでください

大ちゃん・マサシ　くだらなくねぇだろ

大ちゃん　　でもまぁ今やることじゃねぇな

マサシ　　　そうだな。大ちゃんとメメとはいずれ決着をつける。

メメ　　　　僕もですか？

大ちゃん　　そうやな。

メメ　　　　え、ちょ。大ちゃんも？

エグっさん　もういいだろ。今は奥さんちの話だろ。

まさし　　　あぁ、そうだった。

タケシ　　　そうですよ。早く、教えてくださいよ。

エグっさん　しゃあないなぁ、え～っと確か・・・店出て五回右に曲がったところが。

大ちゃん　　あほ、それじゃあ戻ってきちまうじゃねえか。

エグっさん　この店だ

大ちゃん　　じゃあ次はわしの番か、青木さんちはここだったように思うぞ。

マサシ　　　そこは、ホーマー・サルバトーレ・トンプソンさんちだろ

エグっさん　出たな黄色人種

メメ　　　　いや、それはシンプソンズです。あれを黄色人種とは言わないと思う

マサシ　　　じゃあここじゃないのかい？青木さんちは

タケシ　　　じゃあって

メメ　　　　そこなんて山の中じゃないですか……………….

エグっさん　あぁ、どんぐり山の狸さんちね。

タケシ　　　狸さんちって

大ちゃん　　狸さんちの奥さんなぁ。キツネ憑きなんよ

タケシ　　　それって狸なんですか？キツネなんですか？よくわかりませんわ？

大ちゃん　　いやだから、キツネ憑きの狸さん

タケシ　　　そんで、結局青木さんちってどこなんですか？

マサシ・メメ・エグっさん・大ちゃん　　・・・・・・・・

タケシ　　　そもそも青木さんなんてほ(電話が鳴る)

マサシ　　　おいタケシ電話出ろよ

エグっさん　ほら、青木さんちの奥さんかもしれんぞ

タケシ　　　ほんとですか？

　　　電話に出る

タケシ　　　はい、　　　　　　　　商店です

大ちゃん　　まったくよく考えれば青木さんちの奥さんなわけあらへんのになぁ、

マサシ・メメ・エグっさん・大ちゃん　　 ＨＡＨＡＨＡＨＡ！

＊＊＊＊＊＊＊＊

タケシ　　　醤油と日本酒

・・・・・・・

タケシ　　　米十キロ

・・・・

タケシ　　　もしかして。

おわり